

No. 46

1979.

7. 1

岐阜の博物館

〒483 羽島郡川島町
 エーザイ工園
 編集 内藤記念くすり博物館内
 兼 岐阜県博物館協会
 発行 TEL (058689) 3111
 内線 540
 振替 名古屋 70106



幅広い文化活動を常時！

過日岐阜県博物館では、特別展「濃飛の先史時代～縄文土器と石器の神秘」にちなんで、「縄文譜を聴く会」という音楽会がもたれた。郷土出身の新進作曲家藤掛広幸氏のエリザベート国際音楽コンクール・グランプリ受賞作品「縄文譜」が、ベルギー国立音響楽団の演奏録音で紹介され、大自然とともに生きた古代人の生きざまが強烈にイメージアップされた。その他、シンセサイザーによる藤掛氏の即興演奏があり、スクリーンに上映される縄文土器、石器が、次々と音楽化され、講堂いっぱいの聴衆を魅了し続け、聴衆のリクエストに応じての演奏もなされた。日曜日に一回きりの催し物で、後から知って残念に思われた方も多く、また「ヘー博物館でそんなことも」とビックリされた方もあった。

博物館ブームとかで、日本各地でも都道府県立段階の大規模博物館が続々誕生している現実の中で、建設の気運の高まりとは逆に、まだまだ

博物館とは、いかにあるべきか、の論議は立ち遅れているといえよう。市民の日常生活に密着し、文化の殿堂として、未来を創造する博物館は、物を見せるだけの施設でないことは当然、市民に開かれた学校であるとともに、自然・人文分野にまたがる郷土学の研究所であらねばならない。そのうえ、市民の文化生活に豊かさをもたらず劇場であり、現代人の心の病いの病院でもあらねばならない。つまり、学校であり研究所であり、劇場兼病院という四つの顔をもった市民生活に欠くことのできない文化生活の道具である。そうしたことを考えれば、博物館は、展示室を公開しているだけなら存在価値はなく、常時、何かがそこで行なわれてしかるべき、少なくとも、月1回、いや毎週毎週、人々の足を向かわせる文化活動の推進こそが生命線ともいえよう。県民の博物館への期待が高まる中で、日常生活にくいこむ博物館側の幅広い事業推進が注目される。(K.H)

小坂町 郷土館

▽ 509-31 益田郡小坂町大字湯屋字沢上
TEL 057662-3610

農家と土蔵と農林資料館と

飛騨小坂湯屋温泉の入口に、町立の郷土館がある。高山線飛騨小坂駅前から、全長7,143mのひだ小坂サイクリングロードが設けられ、その終点が郷土館になっている。家族連れで、小坂川の清流を楽しみながら、ベタル踏み踏み訪ねてみるのもいいだろう。

小坂町郷土館は、江戸時代の大型農家清原家住居、安永4年建築の住家土蔵（いずれも町指定建造物文化財）と、農林業関係の用具類、文書類を展示した農林資料館の三棟からなりたち、中庭を利用して、国の特別天然記念物ニホンカモンカが六頭ばかり飼育され、いつでも間近で観察できるようになっている。

清原家住居は、間口19.11m、奥行15.47m、木造二階建元板葺、大部分がヒノキという県下でも農家としては良質材を使った大型上層農家で、内部も見学できるようになっている。

住家土蔵は、間口・奥行とも7.28m、中央右奇りに出入口があり、入るとまず広間がある。柱はケヤキ・ヒノキなどこれも良質の直材が使用されており、内部がやはり見学できるようになっている。農林業資料館内には、野良仕事道

▼ 農林資料館内の展示

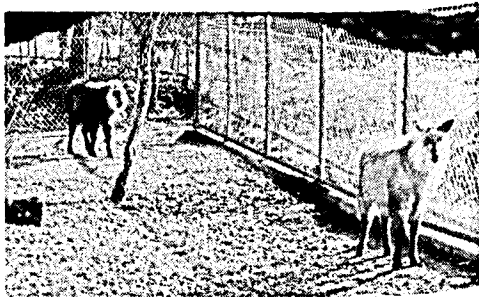


▲ 小坂町郷土館の正面入口

具・山林器具を主に、照明器具、家庭調度品等が保存展示されており、古文書類も見られるようになっている。清原家住居、住家土蔵そのものが貴重な文化財であり、野外展示となっており、市町村単位の郷土館としては、申し分のないまとまりのあるものとなっている。

だがしかし、県内各地にみられるこのような郷土館は、どれも同じように、郷土の貴重な文化財である家屋を移築保存し、郷土に伝えられ残されてきた民俗資料を展示公開するといったことでは、判を押したように同じである。それはそれなりに意義深く、市町村単位の事業としては、大変な英断であったにちがいない。ただひとつ欲を云わせてもらえば、郷土館……として、いかに地域住民の日常の文化生活にこいこむ活動をなしとげていくのか、……つまり、一面では都会からの訪問者に郷土を紹介するという観光施設的な要素をもちつつも、やはり、その本筋は、地元の人々の生涯教育に役立つ博物館機能をもった郷土館として活動してもらいたいと願うものである。

▼ 中庭で飼育中のカモンカ



瑠璃壺を焼く一觀の姿が……

飛騨民族考古館長 坂本重次郎

私の見た中国には、漢代物初め唐・北宋・元・明代物等種々容々たる陶磁の世界があり、三彩・青白磁・呉須・均窯・赤絵その他今日ではまるで夢のような話でした。軍票にて万曆赤絵の大皿3枚や均窯香呂等買った時のその思い出は、未だ目に浮かび忘れることができません。今は博物館等にもその夢を叶えてくれるかに思えます。しかし、前後をふり返って見ても、この私の壺のようなたぐいの物は、中国や我国においても見たことはありません。瑠璃釉を呈するものは、わずか北宋の物に見受けられ、それらは磁胎が主で、元・明・清の物では磁胎と、また陶胎であっても中国の土であったりして、我国特有の胎土に瑠璃を呈した物は、今のところこの壺以外に見当りません。私のこだわりとする点は、我国王朝時代に瑠璃の表現が数々出ていることです。もはや中国渡来は疑いないとみて、その渡来品たるや我国陶芸史上をみても、私は未だ見たことがありません。珍重したことは確かですが深い謎です。陶磁器史上においての瑠璃の研究は、まだまだ限らないものがあります。

瑠璃瓦とのかかわり

次いで瑠璃壺と深いかかわりを持つとみられる瑠璃瓦について、資料をみることにします。予想もつかぬ瑠璃瓦の出現には驚きました。陶磁器同様に中国と我国王朝時代との交流面が、少しながら伺われます。続日本紀中「称徳天皇(767年)に初めて瑠璃瓦でふく」とあり、色調は表わされていませんが、まさに日本最初の渡来瓦と思われまふ。しかし今日に於ても我国ではその瓦たるや発見されたとは未だ耳にしておりません。瑠璃瓦にても謎です。中国では、唐代王官に瑠璃瓦とあり、唐代に渡来したことは疑いないと思います。宋代に至り、宮殿文徳殿も瑠璃瓦とあり、元代を経て明代に入り瑠璃瓦

の全盛を極め、北京、南京の宮殿、歴代帝陵に属す殿舎はみな瑠璃とあり、主に宮制瓦が発達しています。

瑠璃瓦には数種あり、唐代では碧釉瓦、宋代に緑碧釉、元・明に至り緑碧白青釉の瑠璃瓦が発達し、まさに色とりどりの華々しい瑠璃瓦の歴史が展開されています。このような、今まで考えても見なかった瑠璃瓦の豪華さを目前とした時、私は明代瓦工一觀や安土城の瓦が再び思い浮かんできました。一觀は明代万曆年中の人物であり、この万曆年制は中国陶芸面においても全盛熟らん時代に入ります。謎多い人物ですが、往時相当高度な瓦の技術を持って我国に渡来したことは間違いありません。同時代日本もまた豪華けんらんたる桃山時代へと移り織田信長の天下統一期にあたります。この信長公は一觀を招き桃山時代の象徴とも言うべき安土城の瓦を焼かせています。(信長公記) 瓦の色調は文中には表わされていないが、明人瓦工一觀のもたらす瓦と言えまさに瑠璃瓦に他ならず、その色調は、中国においても高度な技術を要すと伝えられる青(紺青)瑠璃であろうと私は考えます。おそらく信長公も、その世にも希な色調の瓦に目を奪われたことでしょう。夢みる一觀像は、天正12年頃、とつじょとして歴史上より消え、その後の足取りは全く不明です。数多く渡来した邦人中、一国の将ともいべく信長公に召し抱えられ、我国歴史上に名を残す限り、私には単なる瓦工とは思えずりっぱな陶工と思えてなりません。安土築城後(天正4年)その周辺一帯の土で、信長公禁制とする官窯を授かり、その高度な瑠璃の技術を生かしながら、信長公好みの種々器類も焼いたのではないだろうか。信長時代とともに歩き、その時代とともに去ったと考えるそのさまは、偶然とはいえ三木自綱と信長公との親交の条と、不思議と似てい

ます。

今私の脳裏には、瑠璃壺が浮かび続けます。壺を手にして、様々な想いと夢をたくした時、

中国文化遺産見学記 その1

必見の靈隱寺…日本とは違った仏像

郡上八幡民芸美術館 松本 五三

私は1978年10月22日より、前岐阜県出納長河合幸夫さんを団長とする岐阜県日中友好の翼訪中団120名の一員として、中国を訪問しました。限られた日数で駆足の見学でしたが、見たまゝ感じたまゝを報告します。

10月27日(金)は、午前10時30分から、杭州市靈隱寺(別名雲林禪寺)を全員で見学しました。1600年の古い歴史を経ている寺でした。中国通史からすれば、この年代は南北朝時代に相当するのですから、日本史ではまだ「倭」と



いう名称で中国が呼んでいた時代です。雲林禪寺は、飛來峰という余り高くない山の麓にあり、禪寺だというので京都の大徳寺や妙心寺を心に画

いていたのですが、塔頭があるのでなく観るための寺という感じでした。この禪寺は、文化大革命前は60人の僧侶がおり、線香の煙がたち込め、読経が行なわれ燈明がともされていたそうですが、現在は無住であり、文化大革命で僧侶は追放されたと説明を受けました。解放当時は原形をとどめないほど崩れ果てていたそうです。中国政府は、1953年から本堂と仏像の再建を行っており現在も修理中でした。

限りなく広がる紺青の世界に“一甌が瑠璃壺を焼く姿”を瞬見たような気がします。

(終)

本堂の高さは45mもあり、その中に19mもの極彩色が施された大釈迦牟尼像が安置され、菩薩像も数多く陳列されており、各仏像は明らかに最近修復されたもののように見受けられました。日本で見られる仏像に慣れている眼で見ると信託の対象ではなく、仏像を観賞するという雰囲気になれませんでした。

中国に関する案内書を読むと、西湖周辺には多数の名勝旧跡があり、その中で靈隱寺は必見に値すると書かれています。中国を訪問して美術院や寺などを見学しましたが、現実的な中国社会には宗教文化は見あたらないように思えました。日本の文化遺産を考える時に、仏教文化が大部分を占めており、その仏教文化の輸出国が中国であることを思うと、現在仏教による中国人民の教化に変化が生じているのでしょうか、将来このことがどのような結果を生み出してくるのでしょうか、興味つきない課題です。仏教が作った文化に取って代って、毛主席の語録がどれだけ現実解決の鍵となっているのか、中国人民には、今迄望むこともできなかった社会が出現したと写っているのでしょうか。今後20年30年たったときの中国人民の心の糧として、どんな文化が芽生えることでしょうか。

11月1日は各班毎に、バスで天安門広場へ行きました。世界的に有名なこの広場は、北京の心臓部にあり、その広さは40haもあり、白い花崗岩を敷きつめた広場では、40万人の集会が可能であるとの説明でした。周辺には、人民英雄記念碑、人民大会堂、中国革命博物館、中国歴史博物館などが偉容を誇っています。

(続く)

昭和53年度 収 支 決 算

岐阜県博物館協会

収入総額 1,164,271円
 支出総額 981,365円
 差引残高 182,906円

◆収入の部◆

(単位円：△減)

項 目	予 算	決 算	増 減	備 考
前 期 繰 越	214,761	214,761	0	
会 費	330,000	208,000	△122,000	
補 助 金	590,000	640,000	50,000	学芸技講習会用協力金として文化財保護協会より50,000
要 覧 頒 布	28,000	96,880	68,880	
雑 収 入	2,000	3,300	1,300	
利 息	2,000	1,330	△ 670	
合 計	1,166,761	1,164,271	△ 2,490	

◆支出の部◆

項 目	予 算	決 算	増 減	備 考
事 務 費	340,000	385,200	45,200	
通 信 連 絡 費	180,000	131,420	△ 48,580	
会 議 費	20,000	10,000	△ 10,000	
印 刷 費	40,000	40,700	700	
需 要 費	100,000	203,080	103,080	
セ ミ ナ ー 費	100,000	7,020	△ 92,980	
学芸技術員講習会費	150,000	176,975	26,975	詳細別紙
機 関 紙 費	350,000	273,380	△ 76,120	
印 刷 費	180,000	140,000	△ 40,000	
送 料	80,000	90,880	10,880	
取 材 費	70,000	33,000	△ 37,000	
会 議 費	20,000	10,000	△ 10,000	
東 海 博 総 会 費	20,000	10,000	△ 10,000	
会 費	10,000	10,000	0	
旅 費	10,000	0	△ 10,000	
日博協大会旅費	20,000	0	△ 20,000	
総 会 費	37,000	29,600	△ 7,400	
通 信 費	16,000	15,000	△ 1,000	
会 場 費	5,000	5,400	400	
印 刷 費	6,000	4,800	△ 1,200	
茶 菓 料	10,000	4,400	△ 5,600	
表 彰 費	20,000	1,600	△ 18,400	
役 員 会 費	70,000	76,240	6,240	
振 替 手 数 料	5,000	2,850	△ 2,150	
慶 弔 交 際 費	15,000	18,000	3,000	
予 備 費	39,761	0	△ 39,761	
次 期 繰 越	0	182,906	182,906	
合 計	1,166,761	1,164,271	△ 2,490	

昭和54年度

収 支 予 算

岐阜県博物館協会

◆ 収入の部 ◆

(単位円：△減)

項 目	54年度予算	53年度予算	増 減	備 考
前 期 繰 越 し	182,906	214,761	△ 31,855	
会 費	250,000	330,000	△ 80,000	
補 助 金	540,000	590,000	△ 50,000	
要 覧 頒 布	28,000	28,000	0	
雑 収 入	2,000	2,000	0	
利 息	2,000	2,000	0	
合 計	1,004,906	1,166,761	△161,855	

◆ 支出の部 ◆

項 目	54年度予算	53年度予算	増 減	備 考
事 務 費	200,000	340,000	△ 140,000	
通 信 連 絡 費	150,000	180,000	△ 30,000	
会 議 費	10,000	20,000	△ 10,000	
印 刷 費	20,000	40,000	△ 20,000	
需 要 費	20,000	100,000	△ 80,000	
セ ミ ナ ー 費	198,000	100,000	98,000	
学 芸 技 術 員 講 習 会 費	0	150,000	△ 150,000	
三 県 合 同 研 修 費	100,000	0	100,000	54年度 岐阜県が当 番県の為
機 関 紙 費	300,000	350,000	△ 50,000	
印 刷 費	150,000	180,000	△ 30,000	
送 料	80,000	80,000	0	
取 材 費	50,000	70,000	△ 20,000	
会 議 費	20,000	20,000	0	
東 海 博 覧 会 費	25,300	20,000	5,300	
会 費	10,000	10,000	0	
旅 費	15,300	10,000	5,300	山梨(一泊)
日 博 協 覧 会 旅 費	46,500	20,000	26,500	仙台(9/20~23)
総 会 費	31,000	37,000	△ 6,000	
通 信 費	15,000	16,000	△ 1,000	
会 場 費	5,000	5,000	0	
印 刷 費	5,000	6,000	△ 1,000	
茶 菓 料	6,000	10,000	△ 4,000	
表 彰 費	5,000	20,000	△ 15,000	
役 員 会 費	50,000	70,000	△ 20,000	
振 替 手 数 料	4,000	5,000	△ 1,000	
慶 弔 交 際 費	15,000	15,000	0	
予 備 費	30,106	39,761	△ 9,655	
合 計	1,004,906	1,166,761	△ 161,855	

濃飛甲冑研究所 吉田ライブラリー オープン



濃飛甲冑研究所、吉田ライブラリーが、この程岐阜市塩町に設立されました。膨大な吉田氏個人の蔵書の整備を兼ね、花月町の濃飛甲冑研究所より南へ50mという近いところに造られたもの。敷地面積150㎡の地に平屋造りながら、庭には赤レンガが敷かれ、ところどころに埴輪、軒丸瓦、鬼瓦等が並べられ、いかにも史学の専門図書館らしく興味をそそる環境です。

吉田幸平先生は、長らく東海中央病院に入院され、手術成功にて一命を取り止められ、退院後一気に図書館設立の大仕事をなされたわけで、以前のバッテリーカムバックの証と思われる。この開館を記念する祝賀会が、去る6月3日午後1時より、当吉田ライブラリー野外で催され、知人、友人をはじめ教育者、研究者、各界文化人等々、多才な方々50名余りが参集し、熱気あふれる中で、各人から祝辞・スピーチが次々と述べられました。

庭には豪荘な甲冑3領も飾り立てられ、吉田先生を象徴する強烈な雰囲気の中で、参加者の口からは感嘆の声があふれ出ていました。茶席の用意もあり和服姿の淑女によるまっ茶のサービス等々、心にくい程のいきとどいた開館祝賀会でした。

吉田先生は、ここ数年来白山修験に関する山岳信仰を研究され、聖護院からは門跡の大先達授与、米国オリエンタル大学からは哲学博士号授与、昨年は彼地の大学にて講演をされ、米国各地の博物館を数多く視察されるなど、その活動・業績は著しいものがありました。今回設立

されたライブラリーには、これまでの先生の研究成果の跡として、驚くほどの研究論文が棚に納められています。これらが、一人の人間の手によってなされたものかと思われる程の内容量で、中には2,000ページ余りに達する大論文もあります。

社会教育施設として、史学の専門図書館強化に独自の一步を踏み出したことは、極めて大きな意味を持った偉業で、新しい図書館像を創造し、発展・拡大させるための先駆的な役割を担っているものです。

今後の活動としては、本の貸借だけでなく、図書館としての従来の機能を乗り超えて、当館をベースにした文化団体、研究者グループ等々の、質的に高い文化的雰囲気の中でのセミナー、各種集会、パーティーなどの開催など、ユニークな文化学習活動が期待されます。

全日本文化団体会議会長江口三五氏は、その祝辞の中で「たとえ建物は小さくても、この吉田先生の学問への情熱、そしてこの吉田ライブラリーの設立精神こそは、最大級のものであり、今後は、濃飛甲冑研究所と一体化した文化の殿堂づくりに、郷土のひとりひとりが心をひとつにして支援しよう」と呼びかけられました。

吉田先生にあっても、これを機に益々ご研究にハズミをつけていただき、学問の追求に、博物館活動にと、従前にもまして活躍いただけるものと思います。多くの方々の吉田ライブラリー活用及びご支援、ご協力が望まれます。

(セミナー委員 亀山久雄)

≡≡≡ 県内ニュース ≡≡≡

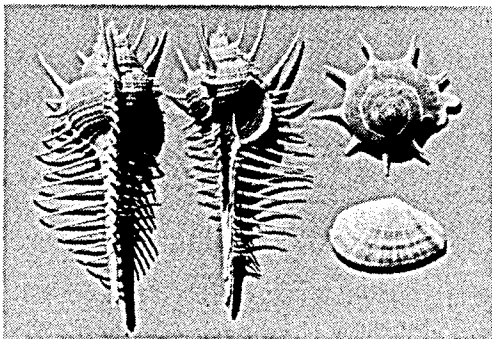
板取村に魚の里オープン

昭和51年度から、国・県の補助を受けて行なわれている自然休養村事業のひとつとして、同村杉島漁業生産組合が、総事業費一億五千万円ほどをかけて建築を進めてきたもの、同村杉島の山林約1.5haを利用して種苗生産施設、水族館等がつくられた。水族館は、鉄骨平屋建380㎡、大・中・小合わせて25の水槽が設置され、アユ、アマゴ、コイ、アジメドジョウなど村内に生息する淡水魚が見られるほか、村内の魚の分布図・ニジマスの生態パネルなどの展示がある。過疎対策としての生産振興と実物学習の場づくり、観光振興とを兼ねた新しい施設づくりとして注目される。

岩村町郷土館特別展 「木曾街道六拾九次」開催

開館7周年を記念して、特別記念展「木曾街道六拾九次」が、来る8月4日～17日間開催される。神戸市の埜村コレクションが出品されるもので、広重46図、英泉24図が展示される。またとないこの機会に、ぜひ多数お出かけ下さり、心ゆくまでじっくりご鑑賞されるようご案内致します。

岐阜県博物館特展「世界の貝」開催



来る7月21日～8月31日まで、「その美と造形」を副タイトルに、日本近海及び東南アジア、

あるいは北の海の貝を紹介するとともに、その色や形の美しさ、生息状況、貝と人間生活などを展示するもの、夏休み中のご家族での行楽に、あるいは学習に、ぜひ多数お誘いあわせのうえお出かけ下さい。毎週月曜日休館。

岐阜県博物館報 第2号 発刊さる

本館報第2号には、昭和53年度の歩み、管理運営概要として組織・予算・入館状況、事業概要として、特別展、資料紹介、全館燻蒸、資料収集調査・教育普及活動などが報告されており、岐阜県博物館の年間の活動状況が概観できる。

岐博協セミナー盛會

6月10日に、本年度第1回のセミナーが、各務原市歴史民俗資料館で開催され、地方自治体における郷土資料館のあり方が浮きぼりにされました。(詳細は次号)来る7月28、29日には、白山周辺の施設めぐりをかねた現地セミナーが開催されます。その都度会員には連絡案内がとどいておりますので、ぜひ多数申込み参加されますようお願いいたします。

編集後記

◎本年度第1号をやっとおとどけ致します。総会時には、本誌の性格等について諸々論議されました。博物館学にかかわる研究論文のもの比重が少ないのではないか～いずれにしても、会員の方々の気楽なご意見をお寄せ下さるようお願いいたします。
◎6月からセミナーが始動、その内容は次号から本誌上にダイジェストしていく予定です。多くの方々のセミナーへのご参加を！
◎吉田ライブラリー設立ほんとうにおめでとうございます。ぜひ会員の皆様方も一度お出かけ下さい。そして、社会に生きて働きかける土着の社会教育機関とは……どうあるべきか、を考えてみて下さい。(S.O)